

視点を変えれば、世の中は変わる。

Rethink フォーラム

Rethink=視点を改めて考える

ちょっとした問題や課題に出会ったとき、視点を改めて本質に気づくことで、前向きな行動につながります。

Rethink PROJECTは、JTがパートナーの皆さまとともに地域社会への貢献活動の総称です。

私たちは、心みたされるよりよい明日の実現に向けて、Rethinkをキーワードにこれまでにない視点や考え方を活かしながら、地域社会の様々な課題に向き合っていきます。

そしてRethinkフォーラムは、地域住民、地域企業、自治体の方々とともに地域社会の課題解決に向けてディスカッションをする場です。みんなで地域の未来についてRethinkしてみませんか？



テーマ Rethink秋田～住みよい街ってどんな街!?!～

Rethink秋田～住みよい街ってどんな街!?!～(秋田魁新報社主催、Rethink PROJECT協賛)が7月25日、秋田市のホテルメトロポリタン秋田で開催されました。宝島社(東京)が雑誌上で毎年発表している「住みたい田舎ベストランキング」で、秋田市はここ数年、人口20万人以上のまちの総合部門1位(2023年版)をはじめ各部門で上位にランクインしています。一体どんなところが評価されているのか。秋田市長の穂積志さん、フリーアナウンサーの相場詩織さん、日本たばこ産業(JT)秋田支社長の半田貴志さんが、住みよい街づくりについて語り合いました。モデレーターはフリーアナウンサーの武藤綾子さん。それぞれの視点から秋田をRethinkした鼎談(ていだん)の様子を伝えます。



会場協力=ホテルメトロポリタン秋田

モデレーター

武藤綾子さん(フリーアナウンサー)

1975年、秋田市出身。立命館大学卒業後、秋田テレビにてニュース番組のキャスターや報道記者として経験を積む。現在は仕事と子育てを両立しながら、司会業やセミナー講師、秋田魁新報社のポットキャストの進行役などフリーアナウンサーとして活動。



出席者

穂積志さん(秋田市長)

1957年、秋田市新屋出身。成蹊大学卒業。87年より秋田市議会議員を務め、厚生委員会副委員長などを歴任。その後、秋田県議会議員を経て、09年の市長選で新人3人の争いを制して初当選した。現在4期目を務める。



相場詩織さん(フリーアナウンサー)

1991年、秋田市出身。津田塾大学卒業後、静岡の局アナウンサーを経て現在はフリーアナウンサーとして全国のテレビ、ラジオに出演するほか、CM出演、ナレーション、イベント・式典MC、モデル、講演会、コラム執筆など多岐にわたり活動中。



半田貴志さん(JT秋田支社長)

1972年、井川町出身。95年JTに入社し仙台支店配属となり野球部で活躍し、野球部廃部後は営業職として勤務。その後北海道支店営業総務部長、東京支店東部第三支店長、宮城支店副支店長を経て、今年4月から現職。30数年ぶりに秋田に戻る。



01 秋田の魅力

「武藤」穂積市長の考える秋田市の魅力を教えてください。
「穂積」田舎ならではの良さや落ち着きに包まれつつも、程よく都会化していて、スピード感も持ち合わせている。そんな部分がランキングで総合的に評価されたのだらうと思っています。

秋田市は、世界保健機関(WHO)が提唱する高齢者に優しい都市「エイジフレンドリーシティ」の実現を目指し、2011年に国内の自治体で初めてWHOの「エイジフレンドリーシティ」に認定された。高齢者に優しい街は障がい者にも、若者にも優しい。そんな街づくりをしようという方向性が伝わってきたのかな、とも思っています。

秋田市最大の課題は人口減。ただ、若い時に都会のぎやかさに慣れて一度秋田を離れても、結婚や出産、親の介護などを機に自分のスキルを生かせる職場さえあれば秋田に帰りたいと思う人は少なくないはず。本市は若者の働く場所を確保するため企業誘致に力を入れており、保育施設の待機児童はゼロ。児童生徒の学力も高いです。就職や子育て支援に力を入れている結果の現れとして、子どもをのびのび育てたいと思う若者が秋田に帰って来る姿が目立っています。

「武藤」相場さんは進学を機に秋田を離れ一度は県外で就職されたそうですね。外から見えて感じた秋田の魅力は教えてください。
「相場」都内の大学を卒業後、2年間静岡の民放局でアナウンサーをしていましたが、過労でドクターストップが掛かってしまいました。そこで常に時間とフレキシビリティに追われていた環境から一度離れ、自分の原点である秋田でゆっくり療養しようと思いつきました。

戻ってきた感じは、自分にとっての当たり前は当たり前じゃなかった、ということ。祖父が農業を営んでいたこともあり、幼い頃のおやつといえば畑で真っ赤に熟れたとれたてのトマト。目が覚めるようなおいしさで、私はよく太陽の味がする。と表現していました。秋田では季節の移り変わりを音や香りなどで感じられ、この自然の恩恵を幼い頃から五感で余すことなく享受出来ていたからこそ豊かな感性が自然と身に付き、今もアナウンサーとして言葉で表現し続けているのだと思います。
「武藤」相場さんのお話を聞いて「確かに私もそうだった」と幼い頃の記憶を思い出しました。井川町出身の半田支社長はこれまで全国転勤が多かったと思いますが、久しぶりの秋田暮らしはいかがですか？

「半田」秋田に戻ってきたのは30数年ぶりです。久しぶりに戻って来て感じるのは、人と人とのつながりが強いな、ということ。秋田出身ですと話せばすぐに受け入れてもらえる点には感謝しています。私は学生時代にずっと野球に打ち込んでいたので、出身高校を話せば「〇〇の先輩(あるいは後輩)だよな」と盛り上がり、一気に距離が近くなりますね。感情的な表現になりますが「なんだかほっこりするな」と感じます。

02 地方都市のあり方

「武藤」穂積市長にとって「住みよい街」のポイントは何ですか？

「穂積」最も大切なのは「安全安心で災害に強い街」であることだと考えています。昨年7月の豪雨で秋田市中心部は家屋の浸水など甚大な被害に見舞われましたが、雨水幹線や排水ポンプをはじめとしたハード面の整備に着手しています。同時に、いかに被災者に寄り添った対応ができるか、といったソフト面の支援も一層充実させなければ

ならないと思っています。JTのRethink PROJECTは森林保全活動に力を入れていると聞きましたが、本市も自然に恵まれており、豊富な森林資源は洪水や土砂崩れの防止といった防災機能の維持にもつながります。

駅前や中心市街地のにぎわいや活性化といった要素も住みよさのポイントになるでしょう。秋田市中心市街地ではあきた芸術劇場ミルハスや市文化創造館を中心に芸術文化の香り高い街づくりを進めており、JR秋田駅西口の芝生広場は若者や家族連れが大勢集まる憩いの場となっています。また、65歳以上の市民が一律100円で路線バスなどを利用できる高齢者コインバス事業にも取り組んでおり、お年寄りがバスを利用して大いに行動範囲を広げています。

「武藤」住みたい田舎ベストランキングの2023年版で秋田市は総合部門だけでなく「若者・単身者」と「シニア」の2部門でも1位でしたが、こうした部分が評価されたのでしょうか。相場さんは秋田に戻ってきたから「実はこんなところが暮らしやすい」と感じた点はありますか？
「相場」上京するまでは「秋田には何も無い」と思い込んでいたのですが、戻って来てからは数値化された秋田の暮らしやすさを体感するようになりました。都内では女性の一人暮らしとなると2階以上でオートロックの部屋を探さなければならず家賃が高い上、隣に誰が住んでいるかわからず不安に感じることが多くありました。一方、本県は刑法犯検挙率全国トップクラスを維持している。安全安心に暮らせる街だと実感しています。

私は疲れた時によく海に行きます。夕日が沈むのを眺めて気持ちをリセットしているのですが、思い立ってすぐにこんなことができるのも秋田だからこそ。ある調査によると、秋田は通勤・通学時間の短さや睡眠時間の長さも全国トップクラスですね。こうしたお金では買えない豊かさを享受できるのが秋田の魅力だと感じています。

「武藤」ビジネスでは地元の人や企業とのつながりが重要だと思えますが、これに関してJTが秋田で取り組んでいることは何かありますか？
「半田」JTは葉タバコの購入から製造、営業、流通に至るまでおむね、気通貫で手掛けているということもあり、ひと昔前までは他社とのつながりをあまり意識してこなかったのが実情です。しかし、時代や環境の変化を受け、今まさに、地元とのつながりを大切にしながら仲間や賛同者を増やす活動に力を入れているところです。

具体的にはひろえは街が好きななる運動(通称・ひろ街)と称した清掃活動を展開しており、「ひろえ」という体験を通じて、「すてない」気持ちや育てたい」というポリシーのもと地元自治体や企業、県民と一緒に定期的に活動しています。また、地元大学と連携し、格差を正に向けた取り組みなども実施してきました。社会全体をより良くするために、さまざまな活動に力を入れています。

「武藤」街や社会を良くするための貢献活動を続けているんですね。相場さんと半田支社長は秋田のことが良くなればもっと暮らしやすくなる、と感じる部分はありますか？
「相場」大きく分けて二つあります。一つは秋田にはすてきな人や物があふれているのに、地元暮らしする人々がその魅力や価値に気付いていないと感じる場面が多々あること。価値の評価基準が東京などの外に委ねられている気がします。もっと自分たちでその価値に気付く、大切に守っていくためにブランディングなどの取り組みが必要だと思っています。

もう一つは、ネガティブなものをポジティブに捉え直す

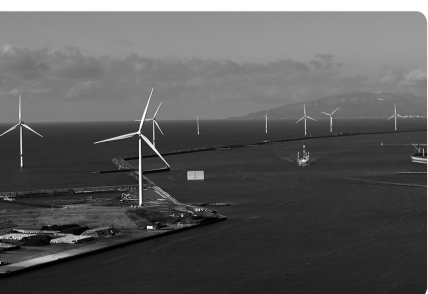


清掃活動「ひろえは街が好きななる運動」の様子

視点があればいいということ。秋田は少子高齢化が進んでいますが、例えばこれを前向きに捉えて「シニアが日本一元気な街」というような視点を持つことが大事だと考えています。県内在住の高齢者をつくる「マタギスナイパーズ」というeスポーツチームがあるのですが、このチームに入りたいと県外から移住を希望する女性がいると聞いたこともあります。

03 未来に向けた発信

「半田」秋田にはおいしい食事や地酒といった魅力が多いですが、インバウンド(訪日外国人客)需要の高まりに伴いポイ捨てが増え、街の景観が損なわれなにかと懸念しています。先ほど紹介した「ひろ街」などの活動を継続し、環境美化に力を入れていきたいです。



秋田港の洋上風力発電施設

「武藤」シニアも若者も、そして子育て世代も住みよい街を実現するには、少し視点を改めて、お互いを理解する思いやりや想像力を持つことが大切です。そして、その先に移住定住したくなるような秋田の姿があると思います。より良い秋田の実現に向けて、メッセージをお願いします。
「穂積」2022年度には秋田市の秋田港と能代市の能代港において、国内初となる大型洋上風力発電の全面的な商業運転が開始されました。再生可能エネルギーにおけるトップランナーとして関連企業の誘致に取り組むなど、若い世代がこの地で将来を描けるような取り組みを進めています。
また、市内には特色ある六つの高等教育機関があり、学生がそれぞれ可能性を育んでいます。例えば、今年開学20年を迎えた国際教養大には全国、そして世界のさまざまな国や地域から学生が秋田に集って学び合い、意見交換することで新たな価値観が生まれており、これが地域の財産にもなっています。中には卒業後も秋田に残って起業する人もいます。秋田市には挑戦する人を応援する土壌があるのですが、まずは目標に向かおうと一歩踏み出してみたいです。
「半田」住みよい街を実現するためには、互いを理解すること、そして「気付き」が非常に大切だと思っています。変化が激しく、正解がないと言われる時代だからこそ大事なことだと思っています。互いに「歩み寄り」をすることで、これまで平行線をたどっていたような議論や考え方も、きつと前向きな方向に変わっていくはず。当社ができることはそう多くないかもしれませんが、ぜひ秋田の皆さんと一緒に取り組んでいきたいです。
「相場」秋田に住む若い方々の中には「秋田には何も無い」とかやりたいことや夢をかなえるには外に出なければいけない」と考える人が多いかもしれませんが、そうではなく、秋田に住みながら、自分のやりたいことも夢もかなえられる、ということこそ自分の言葉と行動を通して示していきたいと思っています。
秋田市では、映画製作を通じて地方創生を目指す「ミラーライアーフィルムズ」という企画が展開され、大学生など市内の若者が著名人と映画製作を体験しています。私も企画の一部に携わったのですが、参加する学生たちが俳優・山田孝之さんら第一線で活躍する方々に直接質問したりアドバイスを受けたらするうちに、目をキラキラと輝かせとんどん表情が変わっていききました。そんな姿を目の当たりにし、若い人が失敗を恐れずにとんどん挑戦できる環境を大人の私たちがつくっていかなくてはならないと感じました。企業力を借りながら、次世代が希望を持って生きていける秋田にしていきたいと思っています。